



弘前四中の職場体験

恒例の行事になりましたが、今年も弘前四中2年生2人が4日間の職場体験をしました。2人とも将来は医師になりたいと希望しています。

2人とも薬の種類が多さにびっくりしていました。薬局でたくさんの薬を見て自分なりに数えてみたようです。400種類もある薬は名前を覚えるだけでも大変そうですけど、どんな病気に使うのか、使う量はどれくらいか、他の薬と一緒に使えるのかなど、他にも覚えることがたくさんあります。で

沢田内科医院は入院患者さんがいますので、医院の中では、医療だけでなくどこにでもある日常の生活が営まれています。ですから、中学生が病院としてイメージしていたこと以上のことが行われています。今回は、患者さんが受診した時に医院で行われている手順に従って、受付、検査、診察、薬の準備、会計、それに病棟でのベッドメイキング、入院患者さんの回診、給食を除いてほぼすべてを経験してもらいました。



北山善之君、大和創太君、井上真利子婦長。いつものことですが、初日はこの笑顔が出ないんです……。

職場体験が主目的なのですが、医師になろうとする2人ですから体のことでこれまで知らない心臓の音を聴いて生きていることを確認したり、腕の動脈の拍動を触れながら血圧を測定して血の流れを体験したり、胃や大腸の中を内視鏡で見たり、



医療機関でなければ体験できないことを経験してもらいました。中学生ですので、まずは人間の体に興味を持ち、それを知りたいと思ってくれれば、将来の職業に結びつくのではないかと思います。

も、どんなに薬の種類が多くても必要があれば必ず覚えられますので、心配することはありません。中学校で勉強してもなかなか覚えられないのは、必要性を理解していないから覚えられないのであって、なぜ勉強しなければならないのかははっきりすれば内容はみんな覚えられとも話しましたが、半信半疑で聞いていました。

看護師が仕事をしている時は、長時間にわたって立っていることにも驚いていました。これまでは、医師が座って患者さんを診察するというのが医療機関でのイメージだったようです。医師も座って

ばかりいるのではないし、特に看護師は、ほとんど立ったままでずっと動き回っていましたので大変だと思ったようです。

学校では12時半頃には昼ごはんを食べるようですが、午前の外来が1時半から2時でなければ終わりませんでしたので、普段とペースが違ったようです。2人と話をする中で、仕事を選ぶ上での覚悟の話もしました。救急で受診した時や入院患者さんが急に悪くなった時は夜中でも起きてこなければならぬこと、患者さんの診療のために食事

の時間も不規則になること、これらは医師になる人は当然覚悟が必要です。レストランの調理師を選んだからには、みんなが遊びまわるゴールデンウィークや年末年始はみんなと一緒に休もうと思ってはいけないうなど、それぞれの仕事を選ぶにはそれぞれに覚悟が必要なことを話しました。

今回も、時間が足りなくて私自身がかかわる機会が少な過ぎました。せっかくの触れ合う機会でしたが残念なことでした。

還暦祝いの反響

前号のニュースレターは還暦特集でした。これにはたくさんの反響がありました。メールも何通か頂きましたし、診察の時に祝いの言葉をたくさん頂きました。ありがとうございました。まるで自分のことのように、繰り返し読んでいるという人も何人かいました。

文章での説明だけでなく、写真をたくさん使いました。30人弱の会でしたけど、みんな立ち上がって楽しそうにしている写真がたくさんありました。その中から会場の雰囲気を表していると思われる写真を選んで

ニュースレターに使いました。この様子が楽しそうで、沢田内科医院の普段の雰囲気が伝わっていると多くの人から感想を頂きました。

60歳になって間もなく飛行機に乗りました。航空券の60歳男性を表す「60M」というのを見て、ちょっと違和感がありましたがすぐに納得しました。でも、まだすっきりはしません。日本年金機構から大きな緑の封筒のに入った書類が届きました。勤務していた頃の年金の手続きをするようにとのことでした。こんなことが重なって、60歳という年齢にだんだん慣れてきました。

私は年齢相応に見られたい気持ちが強いです。そんな



還暦DVD

私に、白くなってしまいそうな髪が目に入らないのか、「先生、若くてとても60には見えません」という患者さんがいます。そんな時は、「帰りにいい眼科の先生を紹介しますから、寄って行って下さい！」と憎まれ口を叩いています。

多くの皆さんに言われたことは、「いい職員に恵まれましたね」ということでした。私自身もそう思います。よく、看護職員を確保するのが大変だということを耳にしますが、ずっと勤務してくれる人が多いので私は苦勞したことはありません。むしろ、最近、「沢田内科医院も高齢化社会になってきたなあ」と、これも憎まれ口を叩いています。

診療時間の変更が時々あります

弘前市医師会理事として活動を始めて7年目になりました。私は自分の仕事で精一杯でとても無理だと思っていたのですが、「自分の仕事だけをしていてもダメなんだ」という先輩たちの話に負け

て医師会の仕事を始めました。

最初は軽く考えていたのですが、間違いだったことにすぐに気づきました。弘前市で特定健診を始

■ めた平成20年頃は、何回も東京へ出張しました。沢田内科医院での仕事が終わった夜に医師会の仕事があるのですが、1週間に5回出かけることもあります。医師会では夜の弁当を用意してくれるので、自宅で晩ご飯を食べることがすごく少なくなりました。

■ この4月から新しい任期が始まりました。これまでは3つの委員会を担当していたのですが、どうしたわけか5つに増えてしまいました。その上、月に1回は昼に会議があります。そのために、午前中の検査を止めて外来を早く切り上げて出席しなければなりません。当然、皆さんにご迷惑をおかけすることになります。

■ また、以前は夕方も入院患者さんの様子を診に行けたのですが、最近はこの時間もありません。大腸ポリープを切り取る内視鏡手術も止めました。

■ 年に何人か、ポリープを切除した後に出血することがあり、これに対応できなくなったからです。入院患者さんの数も意識的に少なくしています。19のベッドが満杯の状態ではとても医師会の仕事ができないからです。

■ 健診、検査、学校医、予防接種、感染症など、弘前市医師会が関係する医療活動がたくさんあります。これらをスムーズにやって行くためには誰かがやらなければならないのです。毎年、120人の看護師が巣立つ看護専門学校の運営も大事です。

■ 弘大医学部同窓会である鵬桜会の理事もしています。5月26日には設立60周年の記念式典を行いました。この準備にも時間がかかりました。自分の医院のことだけを考えて診療するのではなく、もっと広い領域で医師として活動することを要求されています。もうしばらくこの状態が続きます。

田中亜希子さん

■ 3月21日から田中亜希子さんが勤務しています。弘前市医師会看護専門学校を卒業して准看護師になり、4月から看護師を目指して看護学科に進学しました。そして、日中は仕事をして夜は勉強という3年間の生活が始まりました。

■ 皆さん気づいていると思いますが、ハキハキしていて新人とは思えない落ち着きがあります。3ヶ月間に沢田内科医院のシステムを覚え、6月16日、花火大会の日に初めての夜勤を経験しました。独り立ちをしたということです。

■ 看護師が何人もいる日中はどうにでもなるのですが、夜は1人だけになりますのですべてのことを知っていなければなりません。薬がどこにあるのか、注射はどこに、レントゲン写真はどうする、内視鏡検査をする時はどうする、これらにすべて対応できなければ夜勤ができないのです。



■ というのは、レントゲン撮影装置や内視鏡検査システ

■ ムの動かし方などを私が知らないからなんです。私は自分がやらなくても何とかなることは覚えないことにしているのです。都合のいい言い訳をすると、安全面を考えているからです。例えば、夜に緊急で内視鏡検査を行うことがありますが、内視鏡を患者さんの体の中に入れた時点で装置に不具合が起こった時に、自分だけしか操作できなければ大変なことになります。

■ 話を元に戻します。田中さんは新人とはいいますが、高校を卒業した後に事務の仕事をしたことがあります。その後、看護専門学校に入り准看護師になりました。

■ 家庭では、旦那さんは1人だけのようですが、小学校2年生と保育園に通う子どもが2人います。年齢は皆さんの想像に任せますが、子どもの年齢から予想してみてください。

■ 日中は仕事をして、夜6時から9時まで勉強です。3年生になると6ヶ月間の実習が待っています。勉強だけしていればいい学生と違い、医師会の看護学生の生活は非常にきついです。でも、みんなやり遂げていますので、しっかり者の田中さんは大

■ 丈夫です。皆さん、よろしくお願ひします。

今年のクールビズ 黄疸になったブタに注射！！

弘前もだんだん暑くなってきました。省エネの一環として始まったクールビズは全国的に定着してきたようです。これまでネクタイをして出席していた会合もラフな恰好でも違和感がなくなってきました。ただ、時と場合によっては何か締りが無い雰囲気になることもあります。私もクールビズに関しては世の中の流れにあまり逆らわないで楽しむことにしました。

沢田内科医院も昨年からクールビズにしました。3月に還暦祝いのパーティーがあり、それに合わせてTシャツを職員がデザインしました。今年は、そのTシャツをそのままクールビズで使うことにしました。左胸にマスコットの「ブタの顔」、右腕には「沢田内科医院」、背中には、相馬のんきさんの筆になる「気合」、この組み合わせで私は気に入っていました。

ひとつ問題が起こりました。3月に作ったTシャツのブタの顔色がピンクからだんだん黄色に変色してきたのです。つまり、かわいいピンクのブタが肝機能障害を起こして黄疸になってきたのです。そこで新しく注文したTシャツのブタは黄疸にならないようお願いしました。7月2日には弘前四中から中学生2人が職場体験で来ますので、それに間に合わせようと余裕を持って注文しました。しかし、3日前になっても届きません。問い合わせるとまだ黄疸問題が解決されていないようでした。

ブタが病気になってもいいから、とにかく7月2日に間に合うようにお願いしました。注文したのは、私の友人が経営する「サイキ」という衣料品の会社です。ただ、これは私に内緒で作っていましたので、3月は偶然お願いしたことになります。やり取りの状況を聞くと、その社員は、「ブタに注射をしてくれないんですか？」と言ったということです。この社員の言葉にはほんとに脱帽でした。参りました。

とにかく、急いで対応してくれTシャツは間に合いました。そして、今年のTシャツは好評です。特に「気



3月にピンクで生まれたかわいいブタが、左のように黄色になってきました。



「気合」を書いてくれた相馬のんきさんと澤田美紀子さん。沢田内科医院の診察券の背景文字ものんきさんが書きました。

合」が良かったようです。譲ってくれないかという話も何人かからありました。追加発注してもいいのですが、今のところ要望には応えていません。

このシャツを着ていると雰囲気がまた違います。クールビズは職場の雰囲気を変える働きもあるようですので、楽しみたいと思います。ただ、問題がありました。ポケットがないことです。通常のユニフォームではエプロンをすることでポケットがありましたが、ズボンにもポケットがないので、大工の棟梁が腰につけているようなものを通販で買ったようです。